令和６年　れんげ米夢つくし栽培ごよみ

良質米の生産は基本技術の励行から！

生産履歴は必ず記帳しよう！

JA筑紫営農センター	(924-1313)
物流センター	(923-8221)
西部グリーン店	(952-2971)
中部グリーン店	(501-0036)
福岡普及指導センター	(806-3400)

月・旬	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中
作業日													

稲の生育と主な作業

5月25日植

田植（植付本数3～5本）

除草剤散布

浅水たん水　浅水　間断灌水　有効分げつ限定期

○中干しは、田植後35日前後より開始する。

中干し

○幼穂長2～3ミリ

穂肥（出穂22～20日前）

○葉色を十分落とす。

間断灌水　花水　間断灌水

出穂期

品種特性

出穂期	成熟期	稈長	m²当穂数	倒伏	いもち耐病性
8月8日頃	9月12日頃	76cm	372本	中	弱

落水（収穫予定5日前）

成熟期

収穫（出穂から35日前後）

病害虫防除

粉剤体系

粒剤

液剤

どちらか選択

ブーンゼクテラ（紋枯病なし）

スクラム（紋枯病あり）（50g/箱）

※注　田植3日前～当日に施用・イネミズゾウムシ・コブノメイガ　いもち病・ウンカ類・イネツトムシ

灌水を行う。やかな吸収を促すため、イネへの適切な散布後は、散布する。面に撒きムラがないよう基準使用量を厳守し、育苗箱全散布

（「病害虫一覧」を参考に防除薬剤を選択する）

（補正）投げ込み。コラトップジャンボP　出穂の2～3週間前に穂いもちの常発地は、

ウンカ・カメムシ・いもち病　ビームアプロードスタークル粉剤5DL 4kg

（補正）秋ウンカ・カメムシ　エクシード粉剤DL 3kg

いもち病　コラトップ1kg粒剤

紋枯病　オリブライト250g

秋ウンカ・カメムシ　スタークル粒剤3kg

いもち病・紋枯病・ウンカ・カメムシ　ゴウケツモンスター粒剤3kg

（病害虫に応じて薬剤を選択する）

いもち病　ブラシンフロアブル 1000倍

紋枯病　モンセレンフロアブル 1500倍

ウンカ類・カメムシ類　どちらか選択　スタークル液剤 1000倍　エクシードフロアブル 2000倍

コブノメイガ　パダンSG水溶剤 1500倍

いもち病対策

（育苗について）
①種子消毒を徹底する。
②籾に発生した胞子の飛散防止のため覆土を完全にする。
③過繁茂、軟弱苗にならないよう注意する。
（移植以降）
①箱施薬（基準量50ｇ／箱）を確実に育苗箱に入れる。
②多肥栽培にならないよう注意する。
③葉いもちが発生したら早急に防除する。
（防除は早いほど効果が高くなる。）
④穂いもちは収量に直接影響するので予防防除が重要。
（出穂期防除は必ず行う。）

レンゲの播種

○　時期：10月下旬～11月中旬
（乾燥すると発芽不良になるので、耕起直後か降雨を利用して行う）
○　播種量３kg／10a

レンゲの生育を良くするポイント

１．酸性土壌に弱いので、phが５.２以下の場合は石灰等により調製する
２．耕起は均平に行う
３．排水不良田は排水溝をつくる。（レンゲは停滞水に弱い）

レンゲのすき込み

○　田植えの直前にはすき込みをしない。遅くても田植えの１ヶ月前頃にすき込むのが望ましい。
○　有機物が分解する時に土壌中の微量要素が流失しますので、下表のいずれかの土壌改良材を散布する。

(kg／10a)

	肥料名	施肥量
土壌改良材	セルカオイスターミネラル	100
	ミネラルG・珪鉄	200
	けい酸加里	40

その後の管理

レンゲの分解によって、稲の根に障害をもたらすことがあります。以下のことを特に注意してください。
１．水を常時溜めない。水管理は、間断灌水を徹底する。
２．やむを得ず直前にすき込んだ場合は、除草剤を散布後１週間して、一度落水し、酸素不足を改善する。

水稲の基肥

○　レンゲの生育状況による肥料の減肥割合を下表に示しています。
（施肥量を基準通りに施用すると倒伏や食味低下の原因になります）
○　レンゲの生育状況と生草重はあくまでも目安で、坪刈りを行い生草重を計って、基肥量を決めて下さい。
〈レンゲの収量調査の仕方〉
１．平均的な生育の所を数カ所選び、１㎡（１m四方）を刈り取って、草の重さを計る。
２．その重さの平均がレンゲの地上部重量（トン数）になる。

レンゲの育成状況による基肥施用量（基肥+穂肥の場合）（10a当り）

すき込み時の生育状況	地上部生草重	夢つくし基肥
旺盛で均一に育成	２ｔ以上	原則施用しない
やや小さく均一に生育	２～１.５ｔ	基準量の３割以下
やや小さく少しまばらに生育	１.５～１ｔ	基準量の５割以下
やや小さくまばらに生育	１～０.５ｔ	基準量の８割以下
まばら又はほとんど生えていない	０.５ｔ以下	基準量のとおり

１．レンゲの栽培年数、ほ場条件（地力）により施肥量は異なります。
２．基肥一回全量施肥の場合は、穂肥時期に肥料が不足することがありますので穂肥で調整する。

施肥（基準量）

◎穂肥をしない施肥体系（緩効性肥料）　(kg／10a)

肥料名		施肥量	成分量 N	P	K
基肥	リンスター30	30		9	
	夢つくし有機一発	50～55	9	4.5	5

※いもち病の多発圃場では45kg/10aで使用して下さい。

◎基肥＋穂肥の施肥体系　(kg／10a)

肥料名		施肥量	成分量 N	P	K
基肥	リンスター30	30		9	
	レコアップ055	55	5.5	2.7	2.7
穂肥	スーパーユーキくん3号	25	2.5	0.7	2.0

○適用害虫と使用方法(ジャンボタニシ)

薬剤名	使用時期	使用量	本剤の使用回数
スクミノン	収穫60日前まで	1～4kg	あわせて2回以内
ジャンボたにしくん	収穫60日前まで	1～2kg	

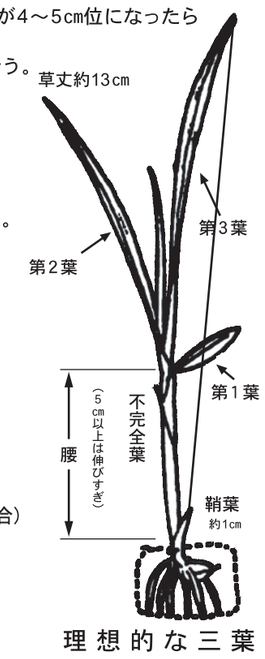
育苗

１．資材の準備
○種子：10a当り3.5kg
○培土
1箱当り
床土は2.5kg
覆土は1.0kg
○山土を使用する場合は、焼籾がら又は培土を容量の３割混合する。
○施肥　育苗肥料４・４・４
山土を使用する場合は、育苗肥料４・４・４（1kg）を50箱分の土に使用する。

２．種子消毒
○水20ℓにテクリードＣフロアブル100mℓを溶かし24時間浸漬させる。
（割合は1：2とする）
（例：種子10kgに対し薬剤20ℓ）
又は、温湯60℃に10分間浸漬後、水で十分に冷却し浸種を行う。

播種前後の管理

播種日数	月/日		
−7		播種準備	○種子消毒（薬剤 又は温湯）を行なう。 ○浸種は積算温度100℃を目標に、水温20℃で５日間、程度行う。また、水は１日１回入れ替える。
−6			
−5			
−4			
−3			
−2			
−1			
0		播種	○種子を水からあげて陰干しし、確実に芽出しさせる（ハト胸～１ミリ） ○播種前に床土に十分にかん水し、次に苗立枯病予防のため、タチガレン液剤100mℓを水100ℓ（100箱分）に溶かしかん注する。（１箱当り１ℓ）
1		出芽・緑化期	◎１箱当りの播種量は催芽籾で150ｇ（1.3合）を基準とし、出来るだけ「うす播き」をする。 ○育苗箱は日当りの良く風通しのよい均平な場所にビニールを敷き、その上にリン木を敷いた上にならべる。
2			○カビが発生したらダコレート水和剤100gを水50ℓに溶かし、かん注する。（100箱）（1箱当り500cc）
3			○苗いもちの発生が予想される時は、ビームゾルをかん注する。（150倍液）（1箱当り500cc）
4			○被覆期間は7日程度とし苗の腰の高さが4～5cm位になったらラブシートを除去する。
5			○かん水は床土の表面が乾いたら十分行う。夕方のかん水は出来るだけさける。
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13		硬化期	○バカ苗病が発生したら直ちに抜き取る。
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			○弁当肥の施用（田植前５日頃） 硫安250gを水50ℓ（100箱分）に溶かしかん注する。 （田植えが予定より遅くなり苗が老化する場合）
21			
22			
23			
24		移植	
25			
26			



理想的な三葉苗

除草　農薬使用時は必ず別紙の「水稲農薬一覧」を確認

◎本田除草剤

剤	除草剤名	使用時期	使用法（10a当り）		使用上の注意
粒剤	ウルフエース粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期迄	3kg	湛水	・各種多年性雑草(セリも含む)やノビエ等が全面的に発生する水田。 ・軟弱苗には使用しないこと。
	キマリテ1キロ粒剤	移植後5日～ノビエ3.0葉期迄	1kg	湛水	・薬害発生が懸念される為、移植5日以降からの所用を推奨。 ・1年生及び多年草の幅広い雑草に有効。 ・雑草を白化させて枯らす。
	エンペラー1キロ粒剤	移植時～ノビエ3.0葉期迄	1kg	田植同時湛水	・田植同時散布機で施用できる。 ・ノビエやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。
パック剤	エンペラージャンボ	移植後3日～ノビエ3.0葉期迄	10パック（250g）	湛水	・各種多年性雑草やノビエ等が全面的に発生する水田。 ・ホタルイやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。 ・10パックを水田に均等に投げ込む。
液剤	エンペラーフロアブル	移植後3日～ノビエ3.0葉期迄	500mℓ	湛水	・各種多年性雑草やノビエ等が全面的に発生する水田。 ・ホタルイやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。

※田面が露出しないようにして散布し、散布後１週間は落水しない事。

◎中後期除草剤

対象田	除草剤名	使用時期	使用量(10a当り)	使用上の注意
広葉雑草 コナギ・ウリカワ等	バサグラン粒剤	移植後15～55日 収穫60日前まで	3～4kg	・10ａ当り３～４kgを均一に散布する。 ・散布１～2日前に落水し、足かた水くらいで散布する。 ・散布後３日間は水を入れないこと。 ・液剤は、動力噴射機での散布は薬害が生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理をすることが望ましい。又高温条件での散布は薬害が生じることがあるので、散布後に高温が予想される場合は、夕方に散布する。
ノビエ・広葉雑草 コナギ・ウリカワ等	ワイドパワー粒剤	移植後20日～ノビエ5葉期まで 収穫60日前まで	3kg	
	ワイドアタックSC	移植後20日～ノビエ6葉期まで 収穫30日前まで	100mℓ	

令和6年1月末現在

●農薬（毒物・劇物）の購入には、印鑑が必要です。

この栽培ごよみはJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

●農薬を使用する際は、必ずラベルの確認をしましょう●